

事業所における自己評価結果 令和3年3月実施
【放課後等デイサービス】

カミヤト凸凹文化教室

職員数6名 回収数4名 回収率100% 令和3年4月 公表

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		%				
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100	0	0		
	2 職員の配置数は適切である	100	0	0		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	75	25	0	手洗い場の位置が高いため昇降台を設置している。	車いす使用者は乗車したまま手洗いができない高さになるので、車いすで使用ができる昇降台を設置します。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	50	25	25	ミーティングでの課題の共有と対策と行動の確認をしている。	課題抽出を見発管が中心となって行っています。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100	0	0		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100	0	0		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	75	0	0		現在第三者評価は受審していませんが、今後受審を検討していきます。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100	0	0		
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100	0	0		
適切な支援の提供	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100	0	0		
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100	0	0		
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100	0	0		
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	50	50	0		長期休暇時の午前プログラムがフリープログラムになっている。選択できる内容にしています。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	50	0	25		子どもの状況に応じて集団と個別の活動が選択できるようにしていきます。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100	0	0	毎日朝の打ち合わせを行い、業務等の確認調整を行っています。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	75	0	25	毎日行っていないですが、必要に応じて迅速に打ち合わせを行っています。	

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100	0	0		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100	0	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	100	0	0		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	75	25	0		コロナ禍で会議の未開催でしたが、今後子どもの支援に最もふさわしいプランづくりの為にふさわしい方との連携をしていきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100	0	0		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	25	25	0		現在医療的ケアの必要な子どもの利用はないので、ニーズがあれば検討していきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	75	25	0		新1年生については就学前の保育園から情報共有をしていただいたケースもあります。子どもの状況に応じて相互の情報共有を依頼していきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	25	25	0		現在、該当児する子どもの利用はないです。該当学年の子どもの利用があった際には連携をしていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	75	25	0	センターに派遣依頼をして、研修会を開催した。	ケースによっては、センターからの助言や研修を受けながら運営をしていきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	75	0	25		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	0	50	コロナ禍で開催されていない。	開催される際には連携などできるように参加します。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100	0	0		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	25	50	25	職員間の勉強会は実施している。	保護者との共有を行い、子どもの支援につなげていきます。
保護	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100	0	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100	0	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	0	50	コロナ禍で開催できなかった。	社会情勢を鑑み、保護者会等を開催して横の連携を作れるようにしていきます。

設 者 へ の 説 明 責 任 等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	75	0	25	月のプログラムの発行をしている。	毎月プログラムを発行している。子どもの利用状況を考慮してプログラムを変更する場合があります。
	35	個人情報に十分注意している	100	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	75	0	25		コロナ禍で地域の方を招くことができなかった。今後は積極的に地域の方との交流をしていきます。
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100	0	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100	0	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100	0	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100	0	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100	0	0		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100	0	0		